

| 出題分析  |             |              |             |
|---|-------------|--------------|-------------|
| 試験時間  | 90分         | 配点           | 150点        |
|   |             | 大問数          | 4題          |
| 分量 (昨年比較)   | 〔減少〕 同程度 増加 | 難易度変化 (昨年比較) | 〔易化〕 同程度 難化 |
| <b>【概評】</b><br>点数および試験時間が増大し、論述問題を出題する形となって2回目となる本試験だが、昨年と比較して大きな変化が見られた。昨年はマーク式出題のうち、空欄補充・語句選択と、正誤判定その他の形式が概ね半々で、一昨年以前の傾向を引き継いでいた。今年はその前者が激減し、マーク式出題の大半を正誤判定が占めた。なお、マーク式出題の総数は39問で昨年とほぼ同程度である。正誤判定は以前多かった語句選択・空欄補充と比較すれば時間がかかったかもしれないが、ハイレベル用語が少なくない量出題されていたことを考えれば、難易度は平均して易しくなっている。また、論述は300字2題から200字と240字となって分量が減少した。地域や時代は、近現代欧米史中心だった昨年に対して、前近代東洋史に偏っている。 |             |              |             |

| 設問別講評 |           |   |     |
|-------|-----------|---|-----|
| 問題    | 出題分野・テーマ  | 設問内容・解答のポイント  | 難易度 |
| I     | 税制史       | [設問1], 隋の煬帝は女性・奴婢への給田を廃止している。そのため文帝代に奴婢への給田があったと考えれば〔04〕も誤文といえる。[設問2], 殿試が最終試験と考えられればよい。[設問6], やや難。消去法で解くか、徽宗といえば「桃鳩図」と信じて解くしかないだろう。なお、「観音猿鶴図」は牧谿の作。[設問7], やや難。<br>[02], 地方行政や紙幣発行など明の初期には元から引き継いだ要素が見られる。[03]の内閣大学士は永楽帝の時に置かれた。[設問11], 難。<br>[02]のチオンピの反乱はフィレンツェで起こった。[01]は永久ラント平和令と呼ばれるもの。[03]の内容もやや難しい。                        | 標準  |
| II    | 文字文化圏と近代化 | [設問1], やや難。イギリスは当初、万国電信連合に加盟していなかった。〔04〕と悩むだろうが、消去法で解きたい。[設問4], ヘブライ語でユダヤ教の聖典は「タナハ」と呼ばれ、これは律法・預言者・諸書の頭文字に由来する。[設問5], [01]の顧炎武や黄宗羲といった明末清初の考証学者は反清復明を果たせなかったのち是在野で活動した。[02]は正しく、ウラマーはあくまで法学者であり、説明のような「聖職者」をイスラーム教では認めない。[設問7], 琉球藩の設置は台湾出兵以前である。[設問9], サーフィン文化は聞き慣れないだろうが、これをドンソン文化の誤りとして差し支えない。サーフィン文化はドンソン文化と同時期にベトナム中・南部で見られた。 | 標準  |

| 設問別講評 |              |   |    |
|-------|--------------|---|----|
| Ⅲ     | 中・近世のトルコ人の歴史 | 〔語群〕のうち(53)(54)のアドリアノーブル、(55)(56)のニコポリス(の戦い)はやや難。前者はオスマン帝国支配下ではエディルネと呼ばれる。〔設問3〕はやや難。〔02〕のエスナーフはオスマン帝国の都市部で見られた同業組合である。〔設問5〕、オスマン帝国の軍の構成に関する問題でやや易しい。デヴシルメにより集められたイエニチェリとティマール制のシパーヒーを対照させて説明し、後者の衰退理由として火砲の発達による戦術の変化を挙げればよい。   | 標準 |
| Ⅳ     | 17世紀のヨーロッパ   | 〔設問1〕は今回唯一の年代並び替え。すべてを正確に並び替えるのは難しいが、〔01〕と〔05〕以外がイギリスの王政復古より前の出来事と判断できれば、後は名誉革命を境に〔05〕と〔01〕の前後関係を考えれば解答できる。〔設問3〕、オランダ独立戦争が1568年から1648年まで続いたとして、これを「八十年戦争」と呼ぶこともある。〔設問6〕、17世紀の英蘭関係に関する論述。指定されている条件が多いので気をつけつつ、それをヒントに要素を整理して解答を作りたい。アジアに関しては台湾の処理が難しいが、アンボイナ事件に前後してイギリスが対日貿易から撤退することと関連させたい。ヨーロッパに関して、航海法や英蘭戦争は書きやすい。一方、ルイ14世による対外戦争の動きに対応するなかで、英蘭が対立から連携へと転じていくこと、そして名誉革命がその決定的なポイントであったことは盲点となりやすく、年号から名誉革命を想起出来ても書きにくかったかもしれない。また、240字に収めるのにも難儀するだろう。 | 標準 |

#### 合格のための学習法

今年のような形式の正誤判定に対しては、やや難・標準的な用語やその説明を取りこぼさないように学習しておくことが重要である。出題傾向が戻って今までのようにマーク式では解答が不可能に近い難問が多く出題されるとしても、そもそもそういった問題では差がつきにくいから、上述のような学習がものをいうだろう。一歩進んだ学習をしたい人は、用語集の頻度の低い用語や説明文中の用語、教科書の注などに目を向けよう。論述問題は、依然として配点が大きいと予想されるため、本格的な訓練が必要になる。始めは早稲田大・法学部の300字論述を使い、慣れてきたら京大の300字や筑波大の400字も使ってオーソドックスなテーマは一通り書けるようにしておこう。